日本金属笠木工業会

アルミ笠木の再利用について

はじめに

「笠木を付けると高くなる」とお考えの方へ

「アルミ笠木を付けた方が良いのはわかっているが、コストが上がるからなぁ……。」ユーザーの方から、こんな言葉を伺うことがあります。

新築時に「笠木を付けた場合」と「あご付きパラペットの場合」の値段を比べれば、付けた場合の方が高くなるでしょう。しかし、万一の漏水事故が起きた場合の費用、手間、信用等を考えると、当初費用だけで判断することは疑問です。また、笠木の費用を「何年割り」で考えるかも影響するでしょう。１０年毎の防水改修の度に笠木も毎回取り替えるのかどうか。もちろんメーカーとしては頻繁に買い替えていただければ商売繁盛ですが、「環境」と「情報開示」の時代です、「笠木は再利用できる場合があります」と正直にお伝えします。以下にアルミ笠木を再利用する条件および施工上の留意事項等について纏めてみました。

１．アルミ笠木再利用の条件

①アルミ笠木本体と固定金具に、変形や破損がないか又、使用上問題となる腐食等がなく、完全嵌合が保持できること。

②パラペットの著しい劣化などがなくアンカーの引き抜き強度が保てること。

③メーカーにより笠木本体の形状、固定金具仕様、固定方法等が異なり、製品メーカーがわからない場合や、再利用出来ない部材の同一品が入手出来ない場合もあります。

④再利用する場合は適切な診断を行い判断する必要があり、専門知識を持ったメーカー又は専門業者と十分相談した上で行うことが肝要です。

２．施工上の留意事項

①笠木本体・受金具・ジョイント材に傷を付けたり、変形させないように、また、既存の防水層や躯体も傷つけないように注意して取り外す。

②取り外した後に、割付けがわかるように笠木本体に合番を付ける。

③既存のビス・アンカーの穴位置から、躯体が損傷しない位置までずらして新規のビス・アンカーを施工する。又既存のビス・アンカーを取り外した後の穴は完全な防水処理を施すように打合せする。

④笠木再取付け後に、クリアランス部や取り合い部のシーリング工事が必要か良く打合せを行う。

３．アルミ笠木の耐用年数は

笠木に絞った基準はありませんが、一般的なアルミ建材の目安としては、軽金属製品協会が定める「アルミ表面処理材の標準耐用年数指針」があります。

アルミニウム建材の標準耐用年数指針

表面処理仕様	雨の当たりやすい部位	雨の当たりにくい部位
陽極酸化皮膜 (仕様 AA15；平均皮膜厚さ 15μm)	15 年	10 年
陽極酸化塗装複合皮膜 (仕様 B 種；皮膜 9μm＋塗膜 7μm)	20 年	15 年

＊仕様 AA15；JIS H 8601(アルミニウム陽極酸化皮膜)による種類＜標準仕様書のＡ種＞
仕様 B 種；JIS H 8602(アルミニウム陽極酸化塗装複合皮膜)による種類＜標準仕様書のＢ種＞

この標準耐用年数は、標準的な表面処理仕様で・標準的な地域で施工された場合に、視覚的な不快感を生じさせない範囲を示したものです。雨の当たりやすい部位は、自然クリーニングされるので耐用年数が長くなります。実際の耐用年数は、これに使用環境やメンテナンス回数等が加味されます。海塩の影響を受けやすい沿岸部、NO_X・SO_X等が多い重工業地帯や幹線道路近く、硫黄化合物が多い温泉地などはアルミ建材にとって厳しい環境です。こういった影響が少ない地域、またクリーニングを頻繁に行っていれば耐用年数は長くなります。尚、この標準は視覚的な不快感に基づくもので、建材の機能が失われるものではありません。（アルミには自己修復作用があって、点食がある程度進行するとそれ以上は進行しなくなります。）

以上の点からすると笠木は、苛酷な環境の場合を除けば、１０年防水改修の度に取り替える必要はなさそうです。もちろん、変形等強度面での支障が生じていないことが前提になります。

写真掲載（案）

・既存笠木（汚れ、劣化）

・改修取替

【参　考】

＊JIS H 8602 が大幅に改正され 2010 年 1 月 20 日に公示されました。以下に新旧 JIS の変更要旨を記載致します。

■改正規格の主な変更点（種類の区分とその位置付け）

旧 JIS ; JIS H 8602 : 2006		
種類	塗膜	用途例（参考）
A	透明系	建築部材(屋外過酷環境)
B	透明系	建築部材（屋外）
P	着色系	建築部材（屋外）
C	透明系	建築部材（屋内）

⇨

改正 JIS ; JIS H 8602 : 2010	
種類	適用環境（参考）
A1	屋外（過酷環境かつ紫外線露光量の多い地域）
A2	屋外（過酷環境）
B	屋外（一般環境）
C	屋内

■改正規格の主な変更点（膜厚に関する規定の変更）

〈膜厚規定〉

旧 JIS ; JIS H 8602 : 2006		
種類	皮膜厚さ	塗膜厚さ
A	最低 9μm以上	最低 12μm以上
B	最低 9μm以上	最低 7μm以上
P	最低 6μm以上	最低 15μm以上
C	最低 6μm以上	最低 7μm以上

⇨

〈性能規定〉

改正 JIS ; JIS H 8602 : 2010		
種類	皮膜厚さ	塗膜厚さ
A1	平均 5μm以上 （最低:5μm×80%以上）	規定なし
A2		
B		
C		

4．ユーザーの方へ

①大規模改修工事又は改築工事等で笠木を是非点検項目として下さい。

②建築物の周期点検で、建築物維持のため笠木が取り付いていない場合にも、是非お取付けのご相談を下さい。

③工業会会員は長期にわたる調査・研究・試験検証などの実績があり新築を初め幅広い対応が出来ます。改修・再利用のチェックリストを用意して、正確な診断と施工ができるよう準備しております。また、会員の製品であれば、メーカー確認や部材の供給状況も早く判断する事ができます。再利用も見据えて、工業会会員のアルミ笠木を是非ご採用下さい。